

SUZUMO REPORT

第 64 期

2023年4月1日～2024年3月31日

Index

トップメッセージ	P.01
第 64 期総括と次期の展望	
特集	P.03
国内・海外の事業戦略	
TOPICS	P.05
財務ハイライト	P.07
アンケートのご報告	

HOLLYWOOD



トップメッセージ

株主の皆様には日頃より
格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます



第64期総括と 次期の展望

代表取締役社長 鈴木 美奈子

第64期を振り返って

2024年3月期、第64期の今期は、増収増益の結果で終わることができました。

連結売上高は、145億14百万円と前年度を7.9%上回り、5期連続で増収を継続しております。利益面については、営業利益は、14億75百万円と前年度を22.5%上回り、親会社株主に帰属する当期純利益についても、11億40百万円と前年度を38.1%上回ることができ、売上高と利益面ともに、おおよそ当初計画を達成することができました。

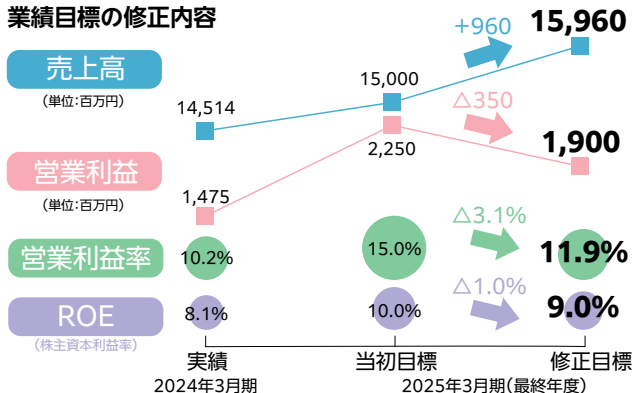
中期経営計画の業績目標の変更

第65期は、中期経営計画「Growth2025」の最終年度になりますが、目標として掲げた営業利益・営業利益率・ROEについては、業績目標数値を下方修正することといたしました。

売上高については、国内外ともに米飯加工機械の販売が大きく伸長し、売上目標として掲げた150億円は超過する計画ですが、今後さらなる成長を見据える中で、必要な人的資源の強化、基幹システムの整備、本社・サービス拠点整備に対する先行投資を実施しているため、営業利益については22.5億円から19億円へ、営業利益率については15%から11.9%へ、ROEについては10%から9%へ業績目標数値を変更いたします。

営業利益の業績目標数値を変更することとなりましたが、この中期経営計画「Growth2025」の当初の狙い通り、コロナ禍という大きな事業環境の変化の中で、顧客ニーズの変化にも対応し、社社の今後の新たな成長の方向性を見出すことができいております。この中期経営計画「Growth2025」の事業の方向性や成長戦略については、路線変更をせずに、当初どおり、しっかりと進めていきたいと考えています。

業績目標の修正内容



第65期の取り組み

第65期は、外食・小売業界においては、世界的な原材料価格やエネルギー価格の高騰に伴い厳しい事業環境が続くことが想定されますが、人手不足の進行による省人化や機械化の需要は引き続き増加していくものと考えております。

第65期の計画数値については、売上高は、前期比10%増の159億6,000万円、営業利益は、前期比28.8%増の19億円を計画しております。

国内においては、ご飯盛付けロボット(Fuwarica)の販売拡大が期待されます。丼チェーンはもちろんのこと、ファミリーレストラン、ホテルといった業態に広がっているほか、ラーメン店でのニーズも拡大し、第64期は、売上高が前年度の1.6倍に大きく伸長しました。朝ご飯のバイキングにおいて、利用者がセルフでご飯を盛り付ける形が定着しつつあり、今後さらに拡大していくものと考えています。ご飯盛付けロボット(Fuwarica)が、株主の皆様への身近な存在になる日も、そう遠くないのではないかと考えております。

海外においては、北米において、日系の事業者の進出が加速しており、さらなる成長が期待されます。米国では、寿司人気もさらに拡大しており、2023年の寿司レストランの売上高は4.5%も拡大しています。低価格の食べ放題店舗から高級業態まで多様化しており、巻物だけではなく握り寿司の人気も拡大しています。私どものお客様である日本の有名チェーン店も続々と北米への進出を発表しております。これまでは、東アジア・東南アジア中心であった日系企業の海外進出が、北米において本格化しようとしています。日系企業が進出することにより、寿司を提供する品質も向上し、寿司の美味しさの認知も高まっていくと期待

できます。

第65期は、引き続き、国内・海外の事業拡大と、新事業の開発と事業成長の基盤構築を実行していくとともに、次の中期経営計画を構築する重要な1年と位置づけ、さらなる成長へ向けた体制強化と戦略の検討を行ってまいります。

工場建設

昨年の3月23日に発表しました通り、生産キャパシティの拡大を目的に、埼玉県鶴ヶ島市に約36,000㎡の工場用地を約25億円で取得し、2026年3月からの稼働開始に向け、建設準備を進めております。2024年秋ごろから建設工事に入る計画であり、建設費の総額は、26億円程度を見込んでおります。現在、埼玉県川島町で稼働している工場については、当面の間は、新工場と並行して稼働をする計画で進めております。

株主還元

2024年3月期の配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想を上回ったことなどを勘案し、期末配当を16円から1円増配の17円と修正し、合計32円といたしました。また、2025年3月期の配当予想は、当社の株主還元方針の総還元性向30%以上の考えに基づき、中間15円、期末18円の合計33円とさせていただきます。

当社の株主数は2024年3月末時点で6,000名を超え、この2年で3倍程度の株主数となりました。個人投資家、機関投資家の皆様への対面やWebを通じた説明会等を通じて、当社グループの取り組みをご理解いただけるような機会を増やし、流動性を改善するIR施策を強化していきたいと考えております。

特集

国内・海外の 事業戦略



代表取締役副社長

谷口 徹

第64期の成果と課題

第64期は期初に掲げた業績計画を概ね達成することができました。国内事業は、お客様の事業やサービスを支援する多面的な提案活動を行った結果、既存のお客様において機械の入れ替えや追加の機械導入が進んだこと、更にFuwaricaの積極的な拡販活動の結果、新規業態・顧客の開拓において大きな成果を得ることができました。一方で海外事業は、今後の事業拡大に向けた課題が顕在化したと考えています。海外事業は国や地域によって市場の成熟度や動向が異なる為、現地子会社や各地域の販売店と密接な連携を図り市場の変化や顧客ニーズを掴むことが重要ですが、そこが十分に機能していなかったと考えています。その結果、期初計画が未達、また地域によっては前年度割れとなりました。今期は海外事業体制の再構築を進めていきます。

FuwaricaとS-Cubeで 新たな顧客開拓を行う

第65期は前期から続くFuwaricaの拡販活動を更に進めてまいります。Fuwaricaは単なる省人化の機械ではなく、人手では難しいご飯を「おいしく」「早く」「無駄なく」「衛生的」に盛り付けることができる機械です。こうした当社機械の特長・価値をお客様へ伝えて新たな機械需要を創出していきます。また今期はS-Cube（コンパクトシャリ玉機）を新製品としてリリースします。この機械は、従来の機械に比べて小さく、軽量なため持ち運びが可能であり、安価でもありますので、お寿司はメインではないが新たな商品としてお寿司を提供したい外食事業者、ホテル、ケータリング、給食事業者等の潜在的な需要を発掘していきます。また同製品は海外へも投入していきますので、グローバルに市場の開拓を図っていきます。

日系企業の海外進出を支える グローバル支援体制

国内の外食事業者の海外進出が加速しています。これまでの海外進出は東アジア、東南アジアの一部の国・地域が中心でしたが、最近ではアジア全域、北米、欧州へも拡大しています。こうしたお客様の海外進出に対して、これまで海外事業部門が担ってきましたが、最近では国内事業部門、海外子会社、日本システムプロジェクトも参画するグローバルアカウン

ト体制を設けてSUZUMOグループ一体でお客様を支援しています。既に実績が現れ始めていて、お客様の海外進出に自社の機械、システム、他社機を提供することで多面的に支援し一案件あたりの事業規模を拡大させています。

食品工場向け大型機事業の立ち上げ

慢性的な人手不足から食品製造の効率化・大規模化が進んでおり、食品工場やスーパーマーケットのセントラルキッ

チンにおける大型機需要が増えています。またアジアを中心とする海外のコンビニエンスストアでもお寿司やおにぎりなどの日本食の提供が拡大しています。こうした市場動向を踏まえて第64期にファクトリー・ソリューション事業本部を立ち上げました。これまでは競合他社の後塵を拝していた大型機事業ですが、これからはファクトリー・ソリューション事業本部が起点となりSUZUMOグループ全体で当事業の拡大を図っていきます。

取締役および執行役員就任のご挨拶

取締役 常務執行役員

越野 純子



このたび、企画・管理本部管掌の重責を拝命いたしました。これまで数々の企業で取り組んできた経営戦略策定業務とファイナンス知見を交え、複雑化を続ける世界情勢とお客様の要望に柔軟な対応ができる社内体制強化に貢献したく存じます。

ジム・コリンズは「永続する偉大な企業をつくるには何が必要か」という問いに対し、「アイデアの力を通して世の中にインパクトを与える」を一つに挙げています。当社創業者の鈴木喜作に思いを馳せました。その尽力を永続的により良く変

えていくことを全てのステークホルダーの皆様のお力添えを頂きながら、社業に精励いたす覚悟でございます。何卒ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

- 1993年4月 株式会社日本債券信用銀行（現株式会社あおぞら銀行）入行
- 1997年1月 フィデリティ投信株式会社運用部インベストメント・アナリスト
- 2002年4月 キャピタル・リサーチ・アンド・マネジメント・カンパニー運用部インベストメント・アナリスト
- 2006年2月 ハルバディア・キャピタル・マネジメント東京駐在員事務所インベストメント・アナリスト
- 2012年4月 モリト株式会社執行役員経営企画部長
- 2015年10月 株式会社大家家具経営企画室部長
- 2016年4月 株式会社 JVC ケンウッド企業戦略部事業開発部長兼経営企画部
- 2019年4月 同社執行役員経営企画部長
- 2020年4月 同社執行役員 CEO 補佐
- 2020年7月 フロンティア・マネジメント株式会社カンパニー経営企画部門執行役員経営企画部長
- 2021年6月 サクサホールディングス株式会社社外取締役
- 2022年6月 株式会社理経社外取締役（現任）

北米の事業レポート

Suzumo International Corporation

取締役副社長

瀧口 知享



北米はコロナを契機とした人手不足の深刻化や人件費の高騰を背景に機械化の動きが加速し、SUZUMOグループの海外売上内の比率でも東アジアを抜き最も高くなりました。北米事業は、米国子会社SICを中心に行っており、今回は現地のお客様を中心にその状況についてお伝えします。

アメリカ東海岸に100店舗超を展開している、高級スー



Astor Place店舗、外観と店内の様子 (Wegmans)

パーマーケットチェーンのWegmansについてご紹介致します。同社は、全米で最優秀小売店に選ばれるほど消費者に支持されており、全ての店舗でSUZUMOの寿司ロボットを使用して、店内調理を行っています。2023年10月にオープンしたニューヨークのAstor Place店では、フロアの真ん中に寿司コーナーを配置し、買い物客から良く見える位置に寿

司ロボットが並んでいます。

最近ではWegmansのようなハイエンドのスーパーマーケットでも、寿司の導入が増えており、北米市場での更なる需要拡大が期待されます。

SUZUMOのロボットは、日本食レストランやスーパーマー

ケットに留まらず、幅広い分野で使用されています。

例えば、Apple社やFacebookのMeta社のカリフォルニア本部内や、多くの大学・病院内のカフェテリア・Hyatt・Four Seasonsなどの世界規模の大手チェーンホテルを始め、観光地のリゾート&カジノホテル、そして、豪華客船内のビュッフェなど様々な場所で活躍しています。

更には、日本人NBAプレイヤー八村塁選手所属のLA Lakersの本拠地スタジアム、アメリカン・フットボールのJacksonville Jaguarsの本拠地スタジアム、ハリウッドとオーランドのUniversal Studiosなどで大勢の人がビールを片手に寿司ロボットで作った寿司を食べながら歓声をあげています。

これまでは、レストランやスーパーマーケットを中心に機械



豪華客船内の寿司バー(IZUMI)
ロイヤル・カリビアン運航の客船内の
寿司バーでも寿司ロボットが活躍



サンディエゴ州立大学の食堂
生徒達自身で白米か玄米かを選択し、
ご飯盛付けロボットを操作して盛付け

化が進んでおりましたが、昨今では大学・病院・スポーツ施設など、機械化のシーンが広がっており、このような事業機会を逃さず、市場開拓に取り組んでいきたいと思えます。

Topics ② 展示会レポート

イタリア編

今回は欧州の事業活動の1つとして、2023年10月にイタリア・ミラノに出展した展示会についてお伝えします。

日本の展示会と異なり、寿司ロボットを知らない方も多岐中、日本食や米飯食の認知や消費は徐々に広がっています。そこで欧州市場活性化の足掛かりとなるべく、以下の3つのテーマで出展しました。① Onigiri市場開拓 ② 販売店との関係強化 ③ 新機種プロモーション その中でも今回はOnigiri市場の開拓にフォーカスしてお届けします。

～Onigiri Market～

現在世界中で人気広がるおにぎり(Onigiri)ブームを背景にSUZUMOグループは他社に先駆けた市場開拓を目指しています。今回、展示ブース来訪者へのおにぎり認知度



アンケートでは、認知度は66%。2022年フランス展示会の調査では2%でしたので1年で事業者のおにぎり認知は急速に拡大しています。一方、一般消費者へのヒアリングでは認知度はほぼゼロ。まだまだ市場創造のフェーズです。また、「Onigiri=三角形」というイメージはなく、丸型(rice ball)にも非常に高い関心を示していました。こうした固定観念に捉われず、現地のニーズを見据え、市場創造していくことが重要であると再認識しました。

欧州市場は厳しい景況感が継続しておりますが、今回ご紹介したような一つ一つの活動から、外食事業者や販売店と連携し、日本食市場の拡大・創造を図っていきたいと思います。



左からデモンストレーション、現地販売店と連携して展示会へ出展、新機種ライスシートマシン(SVS-FCA)

Pick Up ① 外食アワード2023受賞

飲食店において店舗業務の効率化と人手不足対策に大きく貢献した点が評価され、第20回外食アワード2023(主催:外食産業記者会)を受賞しました。今後も、店舗全体の付加価値向上に寄与すべく店舗全体の省人省力化やコストダウンソリューションを提案・開発してまいります。



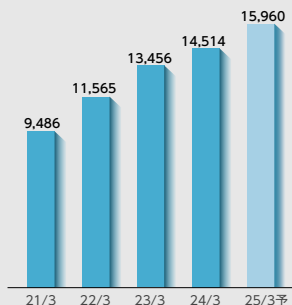
Pick Up ② サービスセンターを新設

アフターメンテナンス機能の向上と業務効率化を目的に、関東サービス拠点を埼玉県和光市に集約し、和光サービスセンターを新設しました。当社の考えるアフターメンテナンスの重要性を、さらにお客様のご期待に沿ってスムーズな業務運営に努めてまいります。



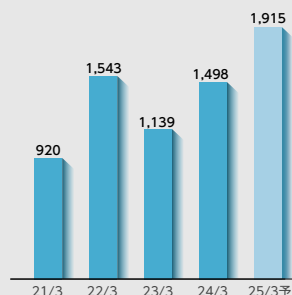
売上高 (単位: 百万円)

14,514 百万円
前期比 7.9%増



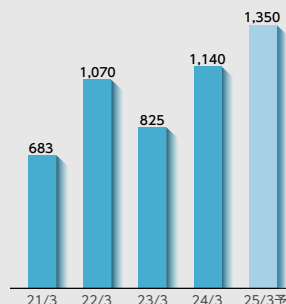
経常利益 (単位: 百万円)

1,498 百万円
前期比 31.5%増



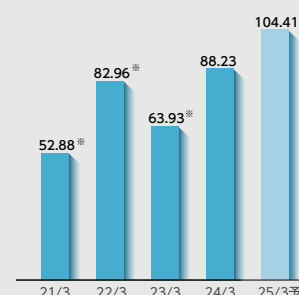
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)

1,140 百万円
前期比 38.1%増



一株あたりの当期純利益 (単位: 円)

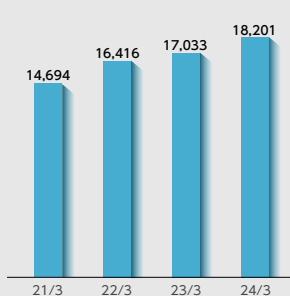
88.23 円



※当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮し、遡及して調整しております。

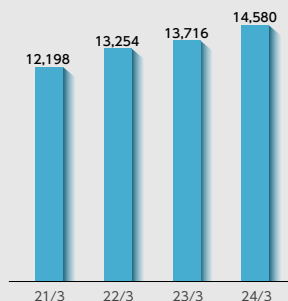
総資産 (単位: 百万円)

18,201 百万円

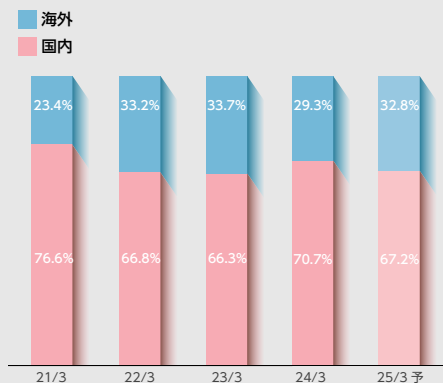


純資産 (単位: 百万円)

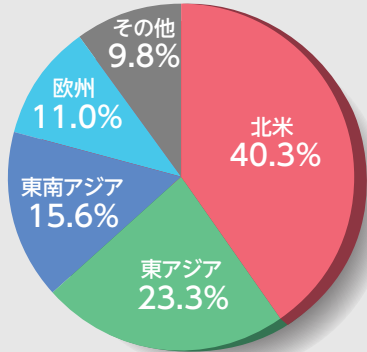
14,580 百万円



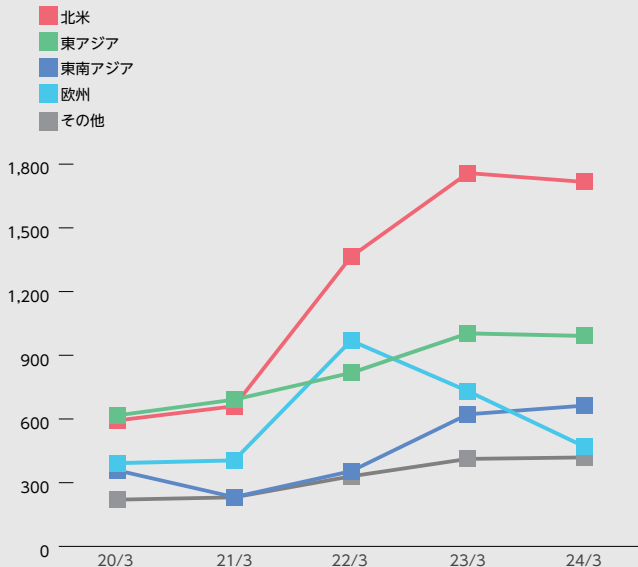
国内外の売上比率



海外の地域別売上高の割合



海外の地域別売上高の推移 (単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2024.3.31現在	2023.3.31現在
資産の部		
流動資産	10,692	9,685
現金及び預金	6,017	4,865
受取手形及び売掛金	1,542	1,577
電子記録債権	311	168
たな卸資産	2,562	2,762
その他	258	312
固定資産	7,509	7,347
資産合計	18,201	17,033
負債の部		
流動負債	2,006	1,802
固定負債	1,614	1,514
負債合計	3,620	3,316
純資産の部		
株主資本	14,356	13,607
その他の包括利益累計額	189	83
非支配株主持分	34	25
純資産合計	14,580	13,716
負債純資産合計	18,201	17,033

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2023.4.1~2024.3.31	2022.4.1~2023.3.31
売上高	14,514	13,456
営業利益	1,475	1,203
経常利益	1,498	1,139
親会社株主に帰属する当期純利益	1,140	825

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2023.4.1~2024.3.31	2022.4.1~2023.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,288	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△653	△3,062
財務活動によるキャッシュ・フロー	△538	△463
現金及び現金同等物に係る換算差額	56	105
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,151	△3,431
現金及び現金同等物の期首残高	4,865	8,276
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	21
現金及び現金同等物の期末残高	6,017	4,865

会社概要 (2024年3月31日現在)

商号	鈴茂器工株式会社 (英文名：Suzumo Machinery Co., Ltd.)
設立	1961年1月13日
本社	東京都中野区中野4-10-1 中野セントラルパークイースト6階 (〒164-0001) TEL.03-3993-1371(代)
資本金	11億54,418千円
事業内容	寿司ロボット、盛付けロボット等の米飯加工機械の 製造・販売など
従業員数	485名 (2024年3月末現在)
URL	https://www.suzumo.co.jp/

取締役および監査役 (2024年6月22日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役 社長執行役員	鈴木 美奈子	
代表取締役 副社長執行役員	谷 口 徹	
取締役 常務執行役員	越野 純子	株式会社理経 社外取締役
社外取締役	高橋 正己	株式会社ロイヤルメディカル クラブ 代表取締役社長
社外取締役	高橋 昭夫	バイオマス・フューエル 株式会社 社外取締役
社外取締役	橋本 泰	株式会社 YU-WA Creation Holdings 社外取締役/合同会社ブリッジ パートナーズ 代表社員
常勤監査役	河野 淳	
社外監査役	村井 淳也	村井法律会計事務所 弁護士、公認会計士
社外監査役	中島 敬方	学校法人ミスバリ学園ビュー ティ&ウェルネス専門職大学 教授

国内拠点



海外ネットワーク



株式の状況

(2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	12,960,000株
株主数	6,501名
1単元の株式数	100株
大株主	

株主名	持株数	持株比率
GULF JAPAN 1	1,797,000	13.90%
鈴木 美奈子	1,626,000	12.58%
鈴木 映子	1,626,000	12.58%
合同会社アン・コーポレーション	1,237,480	9.57%
鈴木器工取引先持株会	624,680	4.83%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE THE HIGHCLERE INTERNATIONAL INVESTORS SMALLER COMPANIES FUND	546,500	4.23%
立花証券株式会社	268,200	2.07%
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED C LINT ACCOUNT	214,500	1.66%
岩本 庄司	200,000	1.55%
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	197,000	1.52%

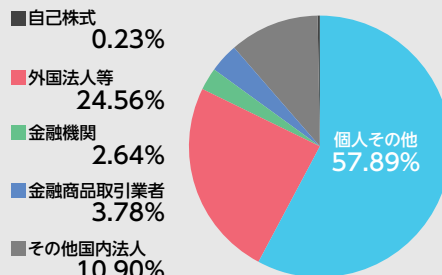
(注1) 持株比率は小数点以下第3位を四捨五入しております。

(注2) 持株比率は、自己株式(30,180株)を控除して計算しております。

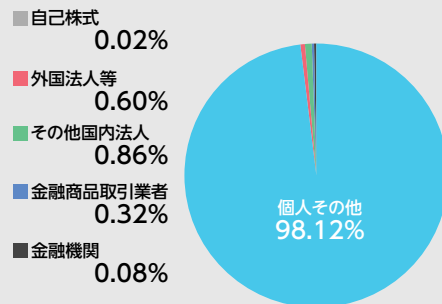
株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
基準日	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
	定時株主総会	3月31日
定時株主総会	毎年6月	
株主名簿管理人特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社	証券代行部
	東京都府中市日鋼町1-1	
	TEL 0120-232-711	
上場市場	郵送先	
	〒137-8081	
	新東京郵便局私書箱第29号	
公告方法	三菱UFJ信託銀行株式会社	証券代行部
	電子公告 (https://www.suzumo.co.jp/ir/)	
	(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)	

所有者別株式数



所有者別株主分布状況



●お知らせ

1. 各種お手続きに関するご注意

(1) 株主様の住所変更・買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2) 配当金の口座振込のご指定につきましては、お手続きは「配当金振込指定書」を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問合せください。

(3) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

(4) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 期末配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「期末配当金受領証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「期末配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認の資料としてご利用いただけます。

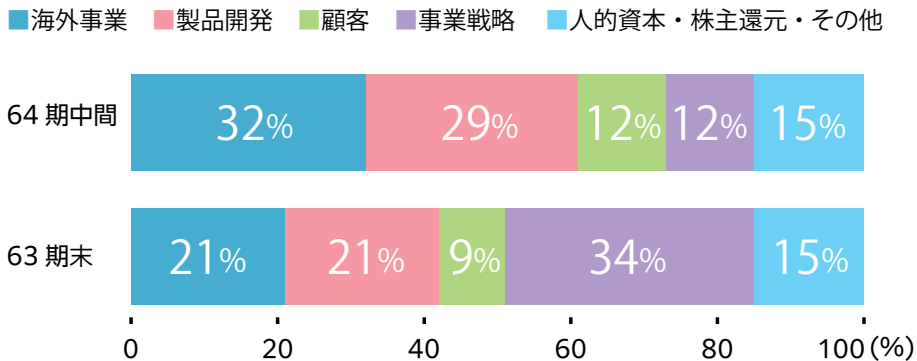
アンケートのご報告

前回発行のSUZUMO REPORT(第64期中間)でご協力をお願いしました結果、多くの株主の皆様にご回答をいただきました。誠にありがとうございました。皆様の声を今後の経営に役立てるべく活用させていただきます。以下にご回答の内容を一部抜粋にてご報告申し上げます。

～株主さま向けアンケートをもとにしたIR活動～

前は欧州のマーケット特集を掲載し、記事に対する株主さまの関心度も高く、海外事業についてさらに知りたいといった声も多かったため、今回は海外の事業活動にフォーカスし、北米の事業レポートとイタリアの展示会レポートを特集いたしました。

特集してほしいテーマ



ご意見・ご要望(一部抜粋)

- ・海外の紹介記事を読んで会社理解が深まった
- ・海外でおにぎりがブームになりつつあるという情報を初めて知って参考になった
- ・特に「海外における日本食の現状」が面白かった
- ・海外展開について詳しいレポートを見たい
- ・特に海外での利用者の評価や反応、文化の違い、新たな取り組みについて知りたい
- ・海外の現状特集や報告を沢山欲しい